

Special dialogue

広川町長

渡邊元喜

×

鹿島三枝

これからの広川町

その先に見えるものは

5月22日に町政4期目がスタートした渡邊町長。町内の子育て世代である鹿島三枝さんが、今期の重要施策などについてインタビューしました。

子育て支援の拡充

鹿島 広報ひろかわ6月号で、5つの重点施策を掲げてありました。私も子育てをしておりますので、子育て支援の拡充にはとても関心があります。12年前の町長就任以降、保育料の軽減、こども医療費無料化の対象者拡充、小学校の少人数学級の実施などに取り組んでこられました。今回改めて、こども医療費の無料化を中学生まで広げることを考えられたのは、どのような背景からでしょうか？

町長 子育て支援については平成25年度、すべての小中学校、すべての普通教室に、県内でもいち早くエアコンを設置しました。教室が足りなかった中広川小は3教室増設し、下広川小は校舎改築を行うなど、小中学校の施設整備には力を入れてきました。今回取り組むこども医療費については、平成25年、助成対象を拡大し、小中学生の入院費を無料としました。平成28年には福岡県が小学生の通院費助成を始めたため、同様に拡大しました。より支援を



渡邊元喜（わたなべもとぎ）

福岡県広川町生まれ。広川町長。広川町議会議員、広川町議会議長を経て、平成19年に広川町長に初当選。今年5月21日に3期目の任期を終え、4期目がスタートした。

鹿島三枝（かしまみえ）

千葉県銚子市生まれ。元日本語教師で、平成22年に広川町へ移住。現在は6歳と1歳の2児の母として、「ひろかわまちじょプロジェクト」や国際交流など数多くの町事業に参加している。

充実させるには、と考えた結果、今回小中学生全員の医療費を無料にしようということになりました。

少子化の今、子どもたちが病気になるってしまったは大変です。大人にも言えますが、病気の早期発見、早期治療で子どもが元気に育ってほしい、というのが第一です。

周知や手続きが整った後、11月から導入したいと考えています。

鹿島 今後の子育て支援については、どのような構想をお持ちですか？

町長 国の施策により、10月から3歳以上の保育料が無料になります。3歳未満は有料のため、町独自で3歳未満の子どもの保護者の負担を軽減したいと考え、一部補助などを現在検討している段階です。来年の4月には、子育て世代包括支援センターを立ち上げる予定です。子育て相談のワンストップ窓口として専門職を配置し、妊産婦や保護者のあらゆる相談を聞きながら、乳幼児に対して切れ目のない支援を提供していきます。母子健康手帳の交付時にはアンケートで聞き取りを行い、さ

まざまな子育て支援へつなぎます。特に支援が必要と思われる妊婦さんに対して「支援プラン」を作り、個別の相談支援を行っています。

また、新生児の聴覚検査の費用補助もやっていきたいと考えています。

鹿島 病院で検査すると有料になりますからね。

町長 ほかに産後2週間と1か月の産婦の健康診査費用の補助なども計画しています。子育てに悩む皆さんの力になれたら、と思います。

鹿島 お孫さんの成長を楽しみにされているとお聞きしましたが、今の子どもたちには何を期待されていますか？

町長 「健康に育ってもらいたい」ということだけです。子どもたちが夢を描きながら、それに向かって自分なりに努力をしていけるように、大人たちはきっかけを作ってあげることが大事ではないでしょうか。私は農家ですが、昔は「長男は農業を継ぐ」と決められていました。そういうことではなく、やりたいことをやらせてあげたいと考えています。子どもたちは将来、いろいろ

ろなところに就職すると思いますが、町内にも優良企業はたくさんあります。全国的に有名な企業があることを知り、町にとどまってもらえらるとありがたいな、と思っています。

健康寿命延伸

鹿島 健康寿命延伸の取り組みを掲げられています。広川町の現状と、具体的な取り組みについて教えてください。

町長 広川町は健康診断の受診率が県内で2番目に高いものの、健康寿命が非常に低い。そのため、自慢できるものではありません。平均寿命と健康寿命の差は、全国で男性8・84年、女性12・35年ですが、広川町は男性13・7年、女性20・2年。入院、要介護、寝たきりといった日常生活に支障をきたす状態が13年や20年あるということです。

健診の受診率が高いため安心していましたが、町担当職員の報告でこの数値を知り驚きました。若い人にも健診を受けてもらうような取り組みを行い、そのデータを基にそれぞれの人に健康指導を行っていく。10年後には全国平均



町内の優良企業を知ってもらうため「親子で工場見学会」を実施。

子育て支援センター「ハグハグ」。役場内に設置する子育て世代包括支援センターでは、妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、切れ目のない支援を提供していく。

を上回るような健康寿命にしたいと考えています。

なぜ健康寿命が低いのか、原因は今のところ分かっていません。一つだけいえるのは、「運動習慣が少ない」ということです。今年度から運動習慣をつけるため、自分に合った運動を学べる「運動ジム事業」や、楽しみながら健康づくりができる「健康ポイント事業」を行います。

広川中学校のプールは築50年を超え、各小学校のプールも老朽化が進んでいます。しかし構造や大きさにもよりますが、1つ作るにも2億円程度必要のため、4つ作ると莫大な費用となります。また、夏休みのプールを監視できる人が少なく、昨年は気温が高かったこともあり、利用者が大幅に減少しました。

これらから、年中利用できる屋内の町民プールを整備してはどうか、ということになりました。上広、下広の児童は町の費用で送迎し、中広の児童は歩いて来ることができ立地条件を検討しています。町民の皆さまにも利用してもらうことで利用頻度も高くなるのではないのでしょうか。

のことに、皆さんの運動量も増えると考えています。

現在は教育委員会を通じて、今のように1校に1つのプールが必要かどうか、調査を始めるようとしているところですが、**鹿島** 屋内プールということではなく、授業のプールも夏だけではないかのですか？

町長 冬でもできますが、各学校のカリキュラムと相談しながらになると思います。

庁舎建設

鹿島 4期目町政の大きな事業の一つに、庁舎建設があります。新しい庁舎を建設することになった背景や理由についてお尋ねします。

町長 役場西庁舎は昭和43年、本庁舎は昭和45年に建設され、昭和54年には本庁舎3階を増築しました。平成17年の福岡西方沖地震では本庁舎の一部が損壊し、平成22年度の耐震診断では震度6〜7の地震で倒壊・崩壊する恐れがあると分かりました。その後東日本大震災を受けて庁舎等建設検討委員会を立ち上げ、熊本地震を契機に一気に建て替えようという流れになりました。

庁舎が一部でも倒壊すると町の行政は止まり、町民に迷惑をかけます。災害時庁舎が一番最初に倒壊してしまっただろうともありません。

もともと庁舎建設は、自治体がすべて自前でやるわけにはなりませんでしたが、最近、国が期限付きで、地方債「市町村役場機能緊急保全事業」を創設しました。国から町へ4分の1から5分の1の財政支援があるため、期限内に合うように進めています。以前庁舎等建設検討委員会のときには、敷地を広げる案もありましたが、拡大はしない方向で進んでいます。

鹿島 敷地というと、今とは別の場所ですか？

町長 アンケートをとった結果、現在の場所が良いという町民の意見でしたので、現在の場所に決定しました。もう少し敷地を広げる計画もありましたが、その調整で5年、10年かかってしまっただけで大変です。

鹿島 どのような庁舎になることを希望していますか？

町長 シンプルかつ町民が使いやすい構造にしたいと考えています。私は屋上展望台を



姫野病院での健康教室。自分に合った運動を学ぶことができる。



望んでいましたが、実現はなかなか難しいようで悩んでいます。5階建てだったら町内ほぼ全域が見えますが、最大4階になるということで、4階の屋上に作ってくれないかなと願っています。

十数年前まで、小学4年生全員がヘリコプターで町内上空を遊覧していました。離発着場が確保できず中止となりましたが、屋上展望台ができたならば、子どもたちが毎日町内を眺められるようになるのではないかと考えています。

鹿島 自分も子どものときから通っている建物は、親しみがありません。用がなくても出入りできるような庁舎にしたい、ということですね。

町長 鹿島さんの家も見えるかもしれませんね。

鹿島 重点施策に、国道3号バイパスの早期実現を掲げてあります。渡邊町長は議員時代から、国道3号バイパスの必要性を説かれ、国への働きかけを続けてこられました。今回の町長選挙では3号バイ

パスの意義や、その実現が近まったことを強調されています。そこでまず、3号バイパスの構想を抱かれた動機について伺います。

町長 私が町議会議員で議長をやっていたとき、上陽、星野、黒木、矢部の議員さんたちと県道三渚上陽線の延伸整備を話し合っていました。

鹿島 私も耳にしたことがあります。

町長 それぞれ郡内の議員さんたちと話し合いましたが簡単にはいきません。どこを通るかなど調整に時間がかかっていたところ、八女市の合併の話が始まり、議員さんたちはこの話に参加しないようになりませんでした。そこで合併後、国道3号バイパス一本で話した方がまとまるのではないかと考えました。

鹿島 新たに何かを通すのではなくバイパスを、ということですね。

町長 道路は一つではなく、二つ、良ければ三つあれば、どれかが使えなくなってもほかを使うことができます。陸の孤島にならない第一の条件です。熊本県の阿蘇大橋が崩落したとき、長いこと阿蘇方

面へ行くことができなくなりました。広川町のような地方は、道路づくりを頑張らなくてはいけないと考えています。町民福祉なども、道路がなければできないことです。

鹿島 有事のときを考えなければいけませんからね。上広川校区の振興には、国道3号バイパスはどのようにつながるのでしょうか？

町長 かつて上広活性化のため、上広に工業団地を作ろうと計画しました。しかし20トントレーラーが通ることのできる道はなく、新たに町道を作るとなると、莫大な費用がかかります。町の負担をなくすため国道にできないかと考え、陳情・要望を繰り返ししてきました。結果として十数年かかりましたが、やっと話が進む方向にきています。

鹿島 現在の国道3号の渋滞はどのような状況なのでしょう？

町長 高速道路の出口から八女市の矢部川までは、朝夕自然渋滞です。

3号線に隣接している広川インターと植木インター間は、大型の通行料が2100円。一方広川で3号線に出て



現在の本庁舎。老朽化が進み、震度6～7の地震で倒壊・崩壊する恐れがある。

国道3号の朝の状況。朝夕、自然渋滞となっている。

植木まで行けば、時間として15分くらいしか変わらないため、3号線を利用します。まだまだ3号線の交差点改良も進んでいないため、3号バイパスはとても重要になってきます。

それに経済効果です。広川町としては工業団地ができる、その地域に民家ができる。工業団地は地の利を活かして、流通団地となるよう誘致したらどうかと考えています。

鹿島 鳥栖市のような感じですか？

町長 そうですね。子どもの夢みたいですけど。

鹿島 いや、すてきですよ！
町長 上広、中広、下広すべてが均衡のとれた発展をしないといけません。広川町は昭和30年、上広川村、中広川村、下広川村が合併して誕生しました。上広の人口は合併前6400人、現在約3700人とほぼ半減、中広は6400人だったのが約11400人とほぼ倍になりました。中広並みには言いませんが、上広の人口を合併前には戻したい。そのためにはやはり国道3号バイパスが必要だと考えています。

鹿島 インターの南側はどのようなにお考えですか？

町長 インター南側の開発は、広川町が最も望んでいることです。しかしインターと国道3

号線の交差点の距離が近すぎて、道路を取り付けることができませぬ。渋滞が起こる可能性があります。渋滞が起これば、国道3号バイパスを作っても車の流れを円滑にし、様子を見ながら南側に道路を入れる計画です。

鹿島 現在の具体的な進捗状況をお伺いします。

町長 やつと国で社会資本整備審議会を立ち上げていただき、5月には第1回の小委員会が開催されています。どのようなことになるか私も予測がつきませんが、来年には用地買収までいきたいと考えています。ルートが決まって用地買収が始まると、「広川町道の駅構想」を立ち上げることができそうです。ルートを決定した後、道の駅を作り、近隣の道の駅



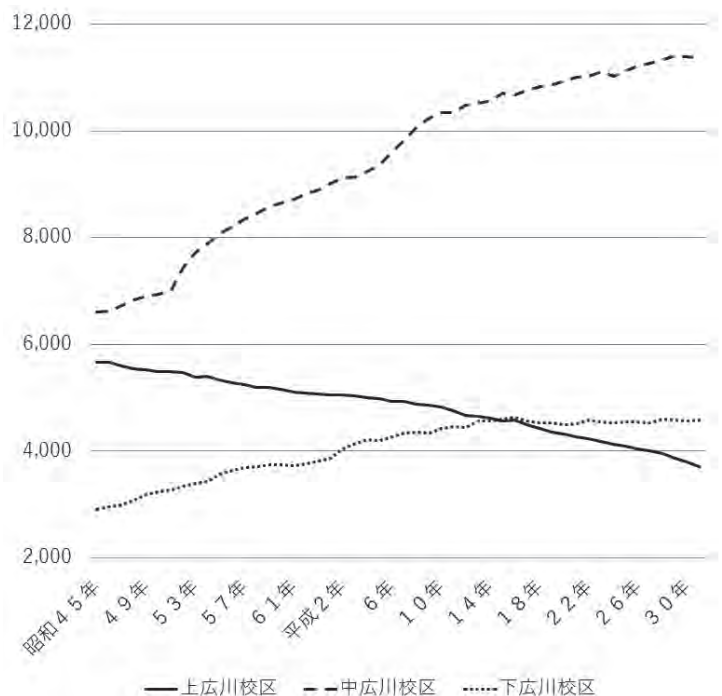
事業を追い越す勢いで経営を進めていきたいですね。

子どもの遊び場

鹿島 ここからは重要施策以外のことについてお伺いします。子育て世代のお母さんたちと「車を使わずに行けるような遊び場が近くにあれば」と話しています。近隣のお宮の遊具も老朽化しており、どこに相談すれば良いのでしょうか。

町長 区の遊具などについては、各行政区の区長さんに話していただくのが最善かと思っています。各行政区の「まちづくり委員会」は、互いが話し合い、コミュニケーションを作る場となっています。そのような場で提案していただくのが

校区別人口推移。上広川校区は減少、中広川校区は増加している。



各行政区で行われているまちづくり委員会。区民で話し合い、地域づくりを行っている。





いいのではないのでしょうか。

町では平成29年度から「地域公園整備事業」を行っており、いくつもの行政区で改修が進められています。すべての行政区で同じ遊具を整備するのではなく、その地域に合った遊具などを整備し、地域コミュニティの向上につなげたいと考えています。そのほか、町では子どもの遊び場となる公園を作る予定です。

鹿島 産業展示会館の横だと聞いています。

町長 現在の産業展示会館の西側駐車場に当たります。駐車場は北側へ移動する予定です。道路沿いに公園を作って、就学前のお子さんと親御さんにご利用してもらいたいと考えています。どのような遊具が良いかは皆さんの意見を聞き

ながらやっていく予定です。

竜光寺公園という案もありましたが、お子さんが何か食べたり飲んだりしたいとき、周辺に何もありません。産業展示館横は「まち子のおやつ」もあるため、ぜひ立ち寄っていただければと思います。

鹿島 私は歩いて行けるので楽しみです。

楽しいことやすてきなことを考えている子育て世代のお母さんたちが多くいますが、そのような意見交換の場があればと考えています。また、それらの意見を実現するような補助などもないでしょうか。
町長 ぜひ自由に発想、立案してください。それを支援する部署がありますので、何かしたいと思ったとき、町にご相談ください。町から与えられるものではなく、町民の皆さんから出た意見でないと成功しませんので。

鹿島 本気でやりたい人たちが集まった方がいい、ということですね。

町長 行政が企画できないようなアイデアを考えていただき、町に相談していただければと

思います。公園整備が終わったらもっと人も集まると思うので、意見交換できるような場ができるかもしれません。

防犯灯、防犯カメラの設置

鹿島 防犯灯、防犯カメラの設置はどれくらい進んでいるのでしょうか？

町長 防犯灯は各行政区の要望にすべて応じています。新設の町道にも設置しており、中学校西側の道路にも設置することになると思います。

防犯カメラは警察や地域と場所を協議しながら、平成29年度に4台設置し、今年度と来年度は10台ずつ設置する予定です。企業の建てた電柱に取り付けるとカメラ設置費用は安くなりますが、賃貸料がかかってしまいます。そこで、初期投資は高くなりますが、長い目で見て負担を軽くするため、電柱を新設し防犯カメラを取り付けています。1台あたりが高額となるため、年に10台程度しか設置できません。維持管理費、更新費を考えると増やしていく予定です。町民の安全安心が大事だと考えています。

(終)



町で計画している、子どもの遊び場となる公園の完成予想図。現在の産業展示会館西側駐車場にできる予定。